



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2023年
2月

1. 2月のDIは、全9指標のうち3指標が上昇、主要3指標は、売上高4ポイント低下、収益状況は40ポイントで横ばい、業界の景況は4ポイント低下している。
2. 2月末時点では、製造業では3指標のDIが低下、また非製造業では4指標のDIが低下している。

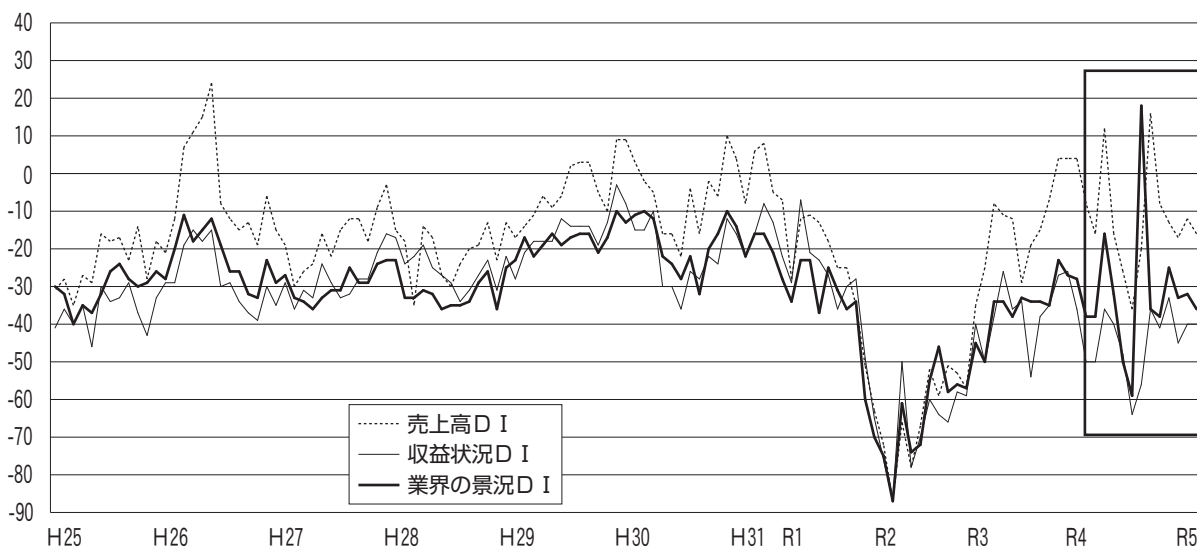
景況天気図

令和5年 2月分	全産業			製造業			非製造業			30以上
	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	快晴
売上高	△12 	△16 	↘ -4	△14 	△25 	↘ -11	△10 	0 	↗ 10	快晴
在庫数量	0 	△10 	↗ -10	△6 	△19 	↗ -13	25 	33 	↘ 8	晴れ
販売価格	28 	28 	→ 0	27 	25 	↘ -2	30 	33 	↗ 3	9~△9
取引条件	△8 	△12 	↘ -4	△20 	△12 	↗ 8	10 	△11 	↘ -21	うす曇り
収益状況	△40 	△40 	→ 0	△46 	△57 	↘ -11	△30 	△11 	↗ 19	△10~△29
資金繰り	△24 	△16 	↗ 8	△26 	△19 	↗ 7	△20 	△11 	↗ 9	くもり
設備操業度	△14 	0 	↗ 14	△14 	0 	↗ 14	/	/	/	△30~△49
雇用人員	△12 	△12 	→ 0	△13 	△13 	→ 0	△10 	△11 	↘ -1	雨
業界の景況	△32 	△36 	↘ -4	△40 	△37 	↗ 3	△20 	△33 	↘ -13	△50以上

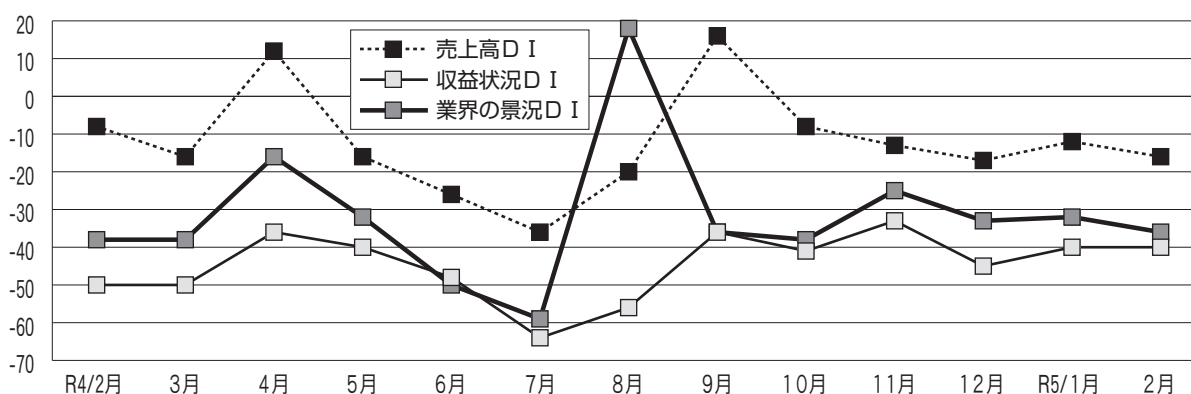
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H25年2月～R5年2月のDIの推移



全産業 R4年2月～R5年2月のDIの推移



業種別概況 (2月分)

【製造業】



水産食料品製造業

長引くウクライナ情勢の影響を受け、電気代や輸送費等の高騰、水産物の不漁などによる高値が続いており、注文・入荷も少ない状況である。組合員は価格転嫁ができず、非常に厳しい状況が続いている。



綿・スフ織物製造業

原材料価格やエネルギーコスト等の上昇により、価格転嫁が思うように進まず先行き不安定な状況である。



木材加工業

前年同月と比べて売上高が減少しており、業界の景況は悪化している。



古紙収集加工業

前月に続き新聞古紙、雑誌古紙は共に大幅に減少し、段ボール古紙のみ若干増えては来ているが、業界全体としての景況は悪化している。



製本業

組合員企業は原油価格の高騰に伴う運送費などを製品単価に転嫁できず、また、機材関連業者からは値上げを要望され苦慮している。

**シール印刷業**

前月同様コロナウイルス感染対策の規制解除による社会経済活動の回復を背景に、食品・電気製品・化粧品・物流・医療関連等業種でラベル需要が回復、売上高は増加し、設備操業度や業界の景況は好転した。ただ、価格転嫁については、資材高騰の影響を受け進まない状況下にある。

**セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比30%増、前年比50%減となった。前月は極端に低い稼働率であったため、30%増では復調と言える内容とはほど遠く、実態は前年比の1/2が示す通り、業界の景況は極めて悪化している。

**石鹼洗剤製造業**

洗浄剤全体の累計では、販売量101%、販売金額104%、共に前年を上回り、市場は好調に見えるが、原材料、燃料等価格の高騰に伴うので価格転嫁については品目によってバラつきがあり、収益状況の悪化に、その影響があらわれている。

**鍛造業**

生産量において2ヶ月連続して前年を下回り、全体として5%程度の前年割れとなった。主要の自動車用が10%以上の前年マイナスとなり、半導体不足と稼働停止による自動車減産が原因と考えられる。

**建築金物製造業**

業界の景況は同年同月と比べて変わらないが、燃料価格、原材料費の高騰や物流コストの高止まり、政府による賃上げ要請など業界各社をとりまく経営環境は依然として厳しい状況にある。また、金利の上昇、ウクライナ情勢の長期化、世界経済の減速のおそれなど、今後も景気の下振れリスクが懸念されるため、しばらくは先行き不透明な状況が続くものと予想される。

**産業機器製造業**

資材等の値上りにより、価格転嫁が厳しくなってきた。売上高、取引条件、収益状況共に悪化、業界の景況も悪化している。

**印刷製本機械製造業**

前年同月と比べて変わらないが、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著であることから大量発注する必要があるが、価格も高騰している為、資金繰りが悪化する要因となっている。

**ブラシ製造業**

景況は前年同月と変わらないが、あらゆる分野での値

上げが続いており、日常生活用品を扱う中小企業の製造メーカー各社は、その値上げ分を商品価格に適正に転嫁できていないことにより、厳しい経営環境に置かれている。

【非製造業】**電気機器卸売業**

全体としては価格転嫁が進展しており、増収・増益基調にあるが、賃上げなどの対応、人材確保には各社苦慮しており、今後のコストインフレ等の懸念を強めている。

**衣服・身の回品卸売業**

エネルギー関連や材料価格の高騰により売上高、収益状況、設備操業度共に悪化、業界の景況も悪化している。

**二輪自動車小売業**

一部商品を除くと新車の出荷が円滑になり始めているが、需要は月を追うごとに冷え、一部車両の在庫が増加し始めており、業界の景況は悪化している。

**地質調査業**

業界の景況は安定しているが、前年比と比べ地盤調査発注量が10~20%減少していることから、2023年度もさらに減少することが危ぶまれている。

**警備業**

コロナ禍の中、社会経済活動が回復してきたことで、警備業務の受注も徐々に増えており、売上は昨年同月より増加に転じた。業界の景況は好転しているが依然、慢性的な警備員不足が問題である。

**建設業**

見積りを出しても受注できない状況が続いており、売上高、取引条件、収益状況、資金繰り共に悪化、業界の景況も悪化している。

**タイル工事業**

前年と比べて原材料・運送料共に上昇しているなか、価格転嫁は100%とは言えず、現在の仕入れ値が販売価格に反映するまで、収益状況の改善は見込めない状況である。

**貨物運送業**

業界の景況として変化ないが問合せ件数、見積依頼件数及び受注件数も増加しているが、燃料価格、資器材の価格高騰と競合他社との価格競争が激化しているため、受注件数に見合っていない状況である。